

出島タイムスリップ ～扇形の宝の島～

インフォメーション

開園時間／8:00～18:00(4/27～5/7及び7/15～10/9は21:30まで)
休館日／無休
入園料／大人500円、高校生200円、小中学生100円
15人以上団体割引あり 大人400円、高校生120円、小中学生60円
お問い合わせ／TEL.095-821-7200(出島史跡案内所)

所要時間・距離

長崎遊さるく(自由気ままに長崎散策) 約90分
長崎通さるく(長崎名物・ガイドツアー) 約120分

長崎通さるく現地集合場所

路面電車1番系統で「出島」電停下車。長崎通さるく現地集合場所(出島和蘭商館跡内ヘトル部屋)まで徒歩1分。
JR長崎駅からは「長崎駅前」電停から1番系統「正覚寺下」行きに乗り、「出島」電停下車。

消費カロリー

141kcal

18 旧出島神学校
明治10年(1877)にわが国最初のキリスト教新教の神学校として建てられた建物。1階は料金所や売店として利用。2階にはビリヤードなどが体験できる展示室があります。



19 南側護岸石垣
四方を海で囲まれた出島の周囲には護岸石垣がありました。石垣の一部が欠損していたため、往時の工法を用いて復元しています。



14 旧長崎内外クラブ(旧内外クラブ記念館)
明治36年(1903)に長崎に在留する外国人と日本人の親交の場として建てられました。建物内には、会議室や応接室のほか、遊戯室、食堂、バーなどがありました。1階には、喫茶・軽食コーナー、2階は旧居留地時代の展示を行っています。

3 乙名部屋
出島内において日本側の貿易事務を担当していた出島乙名が拠点とした建物。出島乙名は、出島を築いた出島町人から選ばれた出島の管理的な役職。1階では、この乙名の仕事をわかりやすく解説。

2 カピタン部屋
オランダ商館長(カピタン)の住居。出島内で最も大きな建物。カピタンの事務所兼住居、そして日本の賓客が出島を訪れた際の接待の場所として使われた出島の中心的な建物。1階は、出島の歴史や生活に関する展示、2階では生活復元展示を行っています。



將軍への献上用にこんな振子のオルゴール時計を持ちこんでいたんですね。

4 料理部屋
商館員たちは1日2回、カピタン部屋の2階で食事をしていました。そのための調理場がこの料理部屋。川原慶賀が描いた絵をもとに室内を再現しています。出島に出入りする通詞や役人が珍しい西欧料理を家族にお土産として持ち帰り、大変喜ばれたのだそうです。



長崎港俯瞰図(長崎歴史文化博物館所蔵)

【出島和蘭商館跡】
寛永18年(1641)に平戸のオランダ商館が出島に移転して以来、安政の開国まで約218年間、出島は西洋に開かれた「唯一の窓」として日本の近代化に重要な役割を果たしました。

5 ヘトル部屋
オランダ商館の商館長次席「ヘトル」の居宅として使われていた建物。1階は史跡案内所や「出島グッズ」などを販売する売店、2階は研修室や図書室として活用しています。

1 水門
西洋と日本の文化・学術・交易品が最初に入出りし、鎖国時代に唯一の西洋との貿易が行われた出島の機能を示す象徴的な建物。2つの通り口のうち南側は輸入用、北側は輸出用に使い分けられていました。

6 一番船頭部屋
オランダ船(一番船)の船長の宿泊所や商館員の居宅として使用された建物。1階には秤などを展示し倉庫として使用された土間を、2階は船長の部屋と商館員の居室を再現。テーブルやベッドなどの家具や生活用品も興味深いものです。



7 一番蔵
輸入品・砂糖の収蔵庫。出島内の倉庫は耐火のために土蔵造りでした。建物内部では、復元工事の過程を紹介しています。また、室内の床の一部を切り取って、発掘調査で見つかった当時の建物の基礎石を公開しています。

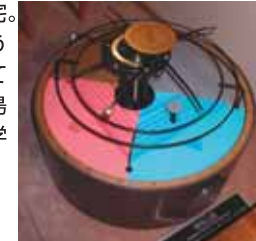
8 二番蔵(交易館)
主に輸入品の蘇木(染料)を保管していた蔵。1階は、「交易と文化の交流」をテーマに、出島を舞台に入出りしたさまざまな品物を紹介をしています。



大阪の住友で鑄造された秤錘(さおど)の複製。出島の代表的な輸出品でした。

9 三番蔵(交易館)
砂糖のほか、さまざまな品目が収められていた蔵。砂糖などの輸入品が保管されていた倉庫の様子を再現しています。

10 拝礼筆者蘭人部屋(蘭学館)
オランダ人商館員住宅。帳簿等の筆記を行う書記の長が居住していた建物です。出島から入ってきた蘭学を紹介しています。



月や太陽の動きを示した天象儀の模型。これでカレンダーの役割もしたんだとか。

11 新石倉(出島シアター)
慶応元年(1865)に建てられた石倉を復元したもの。出島のガイダンスとして、「阿蘭陀通詞の出島案内」を上映しています。

12 表門
平成2年に復元されたもの。本来の位置は明治期の中島川変流工事によって削られた部分(川の中央付近)にあたります。江戸時代には、江戸町から表門橋を渡るとこの表門があり、ここには探番(さぐりばん)が詰めていて出入の者を改めています。

13 旧石倉(考古館)
安政の開国後の幕末に建てられた石造倉庫。第2次世界大戦などで倒壊寸前だったものを市が買収し、残っていた礎石の上に古写真などを参考にしてその半分を復元。1階は、出島から出土した遺物を中心に展示しています。



オランダ東インド会社の社章VOCを中央に描いた皿で出島を象徴した焼物。

15 ケンベル・ツェンベリー記念碑
出島オランダ商館医として来日したシーボルトが、前任の学者であるケンベル、ツェンベリーの功績をたたえ、これを顕彰するために建てた記念碑です。

16 シーボルト里帰り植物
シーボルトは出島から260種の植物をオランダに送っています。そのうち13種が現在もライデン大学附属植物園で生育されており、その中から5種の植物を日蘭交流400年を記念して出島に里帰りさせ、植樹したものです。

17 ミニ出島
昭和51年に制作された15分の1の模型。1820年代ころの出島を川原慶賀が描いたとされている「長崎出島之図」を参考に作られたものです。

この線は江戸期(1740年頃)の出島の形です。

長崎さるく博イベント情報

史跡 出島ワールド

長崎さるく博期間中、史跡「出島和蘭商館跡」に町並みが出現します。「カピタン部屋」では往時のオランダ商館の様子が復元されます。往来するカピタン(館長)、通詞、船員、出入りする日本の役人や町人、遊女たち。さあ、出島ワールドへタイムスリップ! また、パーティー「出島大宴会」や内外クラブでの「オランダ茶屋」など楽しいイベントも実施されます。

- 1 水門付近では、往時の衣装をまとったカピタンと丸山遊女が、地酒を一杯(有料)ご賞味いただきながら送り三味線で華やかに見送りします。(4/27～5/7、7/15～10/9 開園20分前)
- 2 新石倉(出島シアター)では、ミュージカルやラブロマンスなどの寸劇が公演されます。(4/8から土・日・祝日)

